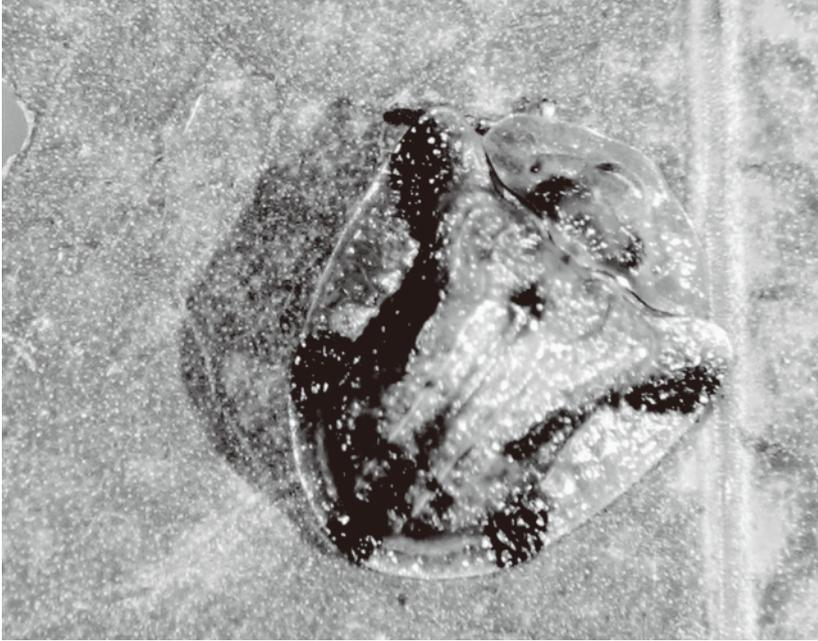


静岡県の外来生物
ヨツモンカメノコハムシ
平井剛夫



ヨツモンカメノコハムシの成虫

ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadorimaculata* (Thunberg) は、ハムシ科の甲虫の一種で、従来、沖縄本島以南の南西諸島に分布していた種である。およそ 20 年前、サトウキビを加害するコガネムシの調査に宮古島に滞在していたおり、隣接する伊良部島の林で叩き網に落ちてきたのがこのハムシであった。ツル性の植物から得られたが、その時は、このハムシに静岡で出会うとは思ってもみなかった。

2008 年 5 月、酒井孝明氏らによって静岡県の富士川町の富士川駅の山麓部で路傍のヒルガオにいたヨツモンカメノコハムシの成虫と幼虫を、さらに同年 6 月に、富士川町中之郷東町の富士川河川敷のサツマイモから幼虫が採集された。県内ではじめての生息の発見であった。それまで、九州での長崎県や鹿児島県からの報告はあったが、本州での生息の確認はなかった。多くの外来生物と同様に、どのように静岡県に侵入してきたのかは不明である。2010 年、筆者は、静岡市内で野生のアサガオより本種を見つかることができた。そして、富士川以東の富士市内でも生息を確認でき、静岡市内の市街地の各地で分布が拡大していることも調べることができた。間もなく、2014 年、藤枝市内での

生息が確認された。最近では、さらに大井川以西の地域へと生息域が拡大している。

2009 年、静岡県病害虫防除所はサツマイモの侵入害虫として病害虫発生予察特殊報を出している。サツマイモもアサガオとおなじイポメア属の植物で、このハムシはいずれの植物も摂食するため、農作物の害虫になっている。

越冬した成虫が春先にヒルガオや野生のアサガオに集まり、産卵し、幼虫は葉を食害しながら、発生を繰り返すものと思われる。初夏には、葉が展開したサツマイモにも移動し、加害してゆく。

瀬名の知人の自宅には、ホームセンターから数年前に苗を購入したというイリオモテアサガオが家先の庭から二階のベランダまで繁っていて、夏から秋にかけてみごとな青色の花を咲かせているが、葉に特有な丸い穴を開けているため、このハムシの加害と成虫を確認できた。「省エネ」に向けた「緑のカーテン」としてこのアサガオがあちこちの家庭の窓辺で栽培されているようである。最近外来性の野生のアサガオが路傍に増えているので、今後このハムシの生息動向に注意を払ってゆきたい。



ヨツモンカメノコハムシの成虫とサツマイモ葉の食害痕